

2001年第1週報告分

- 発生動向総覧／調査票通信
- 全数届出患者数一覧表
- 定点報告疾患集計表
- 年齢階級別累計表
- 保健所別累計表
- 疾病別グラフ

2000年12月報告分

- 発生動向総覧
- 保健所別累計表
- 年齢階級別累計表
- 医療圏別累計表
- 疾病別グラフ

感染症豆知識《多剤耐性結核》

東京都結核・感染症発生動向調査企画委員会

事務局:東京都立衛生研究所疫学情報室

電話:03-3363-3213(直通)

FAX:03-5332-7365

E-mail: idsc@tokyo-eiken.go.jp

ホームページ:www.tokyo-eiken.go.jp/IDSC/

(全数情報)

コレラ1件は疑似症患者である。マレーシア・シンガポールでの感染が推定されているが、検便ではコレラ菌は検出されなかった。

レジオネラ症1件は65歳女性で、温泉での経気道感染が推定されている。

(推定される感染地域は、医師の届出によるものです。)

(定点情報)

報告日数の少ない割に咽頭結膜熱、水痘、麻疹、流行性耳下腺炎の報告は多い。感染性胃腸炎、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、伝染性紅斑についても今後の推移に注意する必要がある。

(病原体情報)

- ・咽頭炎患者から検出された溶血性レンサ球菌はT-12型であった。
- ・バリ島から帰国後発病したデング熱疑い患者からデングウイルス特異IgM/IgG抗体が検出された。
- ・伝染性紅斑患者は家族内発生の30代女性でパルボウイルスB19特異IgM/IgG抗体が検出された。
- ・11月22日から28日までに搬入された咽頭結膜熱、上気道炎、不明熱と12月5日の気管支炎あわせて4件の患者検体から、アデノウイルス3型が分離された。
- ・12月28日から1月11日までに上・下気道炎の患者検体24件が搬入され、そのうち検査の終了した10件中3件からRSウイルスが検出され、インフルエンザウイルスは全て陰性であった。
- ・先週報告した気管支炎および、リンパ節腫脹の患者2名の咽頭拭い液からアデノウイルスの他にEBウイルスも検出された。
- ・12月28日から1月6日までに感染性胃腸炎集団事例が12事例発生し、11事例の患者24検体からSRSVが17件検出されている。

(その他の情報)

- ・上・下気道炎、感染性胃腸炎、脳炎・髄膜炎の検体搬入が多い。
- ・血管性紫斑病が院内で同時期に3例発生したためEBウイルス感染症を疑って検査中。
- ・都内ではインフルエンザウイルスは検出されていない。

品川区

水痘の患者は生後22日。兄が10日ほど前に水痘に罹患し、治ゆしたばかりである。母親は子供の頃に水痘の既往がある。

多摩市

水痘が昨年未から流行中。

全数届出患者数一覧表 2001年1週

分類	疾病名	東京都分(報告週)				全国分(診断週)
		50週	51週	52週	1週	1週
一類	エボラ出血熱					
	クリミア・コンゴ出血熱					
	ペスト					
	マ-ルブルグ病					
	ラッサ熱					
二類	コレラ			2	1	1
	細菌性赤痢	1	2	3		5
	腸チフス					
	パラチフス					
	急性灰白髄炎					
	ジフテリア					
三類	腸管出血性大腸菌感染症	6	4	1		9
四類 (全数届出)	アメ-バ赤痢	4	6	2		
	エキノкокクス症					
	黄熱					
	オウム病					
	回帰熱					
	ウイルス性肝炎(急性肝炎)	1	1	2		
	Q熱					
	狂犬病					
	クリプトスポリジウム症					
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1			
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2				
	後天性免疫不全症候群	1	6	7	5	2
	コクシジオイデス症					
	ジアルジア症	1		1		
	腎症候性出血熱					
	髄膜炎菌性髄膜炎					
	先天性風疹症候群					
	炭疽					
	ツツガムシ病	1				1
	デング熱					
	日本紅斑熱					
	日本脳炎					
	乳児ボツリヌス症					
	梅毒	1	2		2	4
	破傷風					
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	1				
ハンタウイルス肺症候群						
Bウイルス病						
ブルセラ症						
発疹チフス						
マラリア						
ライム病						
レジオネラ症				1		

東京都分の集計は、医師からの追加届出により増加することがあります(2001/01/12集計)

定点報告疾病集計表（男女別）

疾病名	性	2000年～2001年 週				累計
		50	51	52	1	
インフルエンザ	男	21	20	24	14	79
	女	22	19	17	7	65
咽頭結膜熱	男	5	5	3	11	24
	女	5	3	6	4	18
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	男	32	19	34	12	97
	女	20	23	33	8	84
感染性胃腸炎	男	778	901	791	215	2685
	女	750	943	762	227	2682
水痘	男	92	102	88	72	354
	女	107	92	99	82	380
手足口病	男	30	17	14	1	62
	女	27	16	13	1	57
伝染性紅斑	男	19	35	35	10	99
	女	32	30	20	12	94
突発性発疹	男	38	35	27	11	111
	女	34	34	25	13	106
百日咳	男	1		1		2
	女	2	2	2		6
風疹	男		2	2		4
	女					
ヘルパンギーナ	男	5	4	4		13
	女		9	3	1	13
麻疹(成人以外)	男	4	2	5	6	17
	女	3	5	3	1	12
流行性耳下腺炎	男	84	80	86	58	308
	女	91	68	86	35	280
不明発疹症	男	1	6	1	2	10
	女	3	4	2	2	11
MCLS	男					
	女					
急性出血性結膜炎	男			1		1
	女					
流行性角結膜炎	男	14	2	21	7	44
	女	14	8	16	5	43
急性脳炎（日本脳炎を除く）	男			1		1
	女					
細菌性髄膜炎	男			1		1
	女					
無菌性髄膜炎	男	1			1	2
	女	1				1
マイコプラズマ肺炎	男		1	2		3
	女				1	1
クラミジア肺炎（オウム病は除く）	男					
	女					
成人麻疹	男	1			1	2
	女		1	1		2

「累計」欄は、当週を含む過去4週分の合計を示したものです。空欄は、報告がなかったことを示して

年齢階級別累計表(2001年1週)

	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS
~6ヶ月		1		10	5			2							1	1	
~1歳		2	1	20	3			13				1					
1歳	3	3		53	14		1	9			1	4	1				
2歳	1	2	1	47	19		1						6			1	
3歳	1	3	2	45	35		4						10				
4歳	2		3	35	30		2						24				
5歳			3	27	20		3						20				
6歳	1	1		31	9	1	5					1	13				
7歳	2		4	20	10		3					1	5				
8歳	2	2	1	12	3		1						4				
9歳			1	15	1		1						2			1	
10~14歳			1	26	3		1						3			1	
15~19歳	1			18									1		1		
20~29歳	2	1	3	83	2	1							4		3		
30~39歳	3														4		
40~49歳	2																
50~59歳	1															1	
60~69歳																1	
70~79歳																1	
80歳以上																	
合計	21	15	20	442	154	2	22	24	0	0	1	7	93	0	12	4	0
先週比	-20	6	-47	-1111	-33	-25	-33	-28	-3	-2	-6	-1	-79	-1	-25	1	0

注：小児科定点把握対照の疾病のうち、「20~29歳」は「20歳以上」と読み替える。

眼科疾患のうち、「70~79歳」は「70歳以上」と読み替える。

保健所別累計表 (2001年1週)

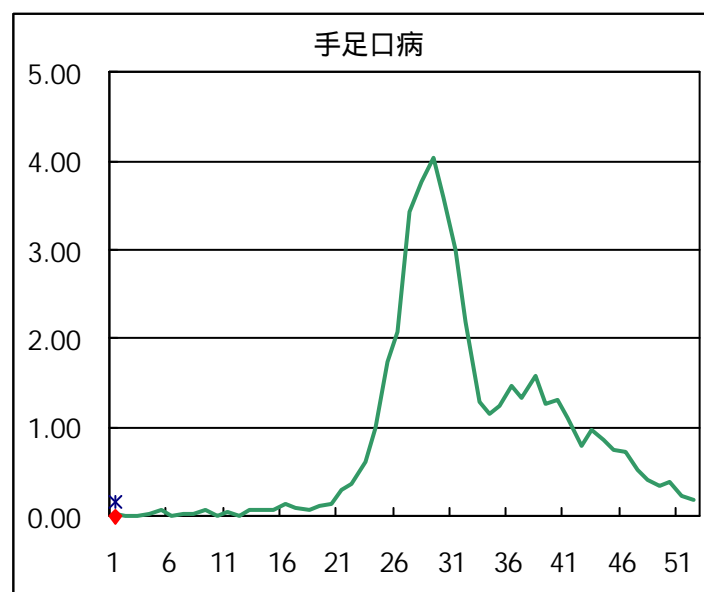
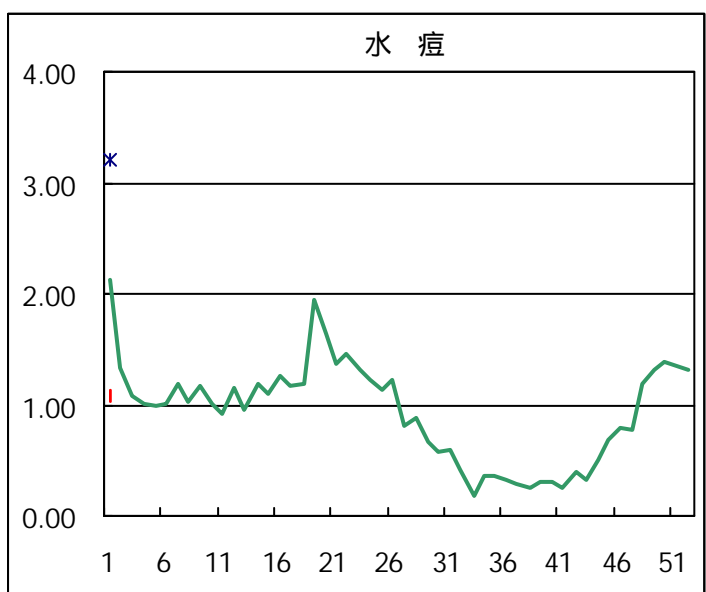
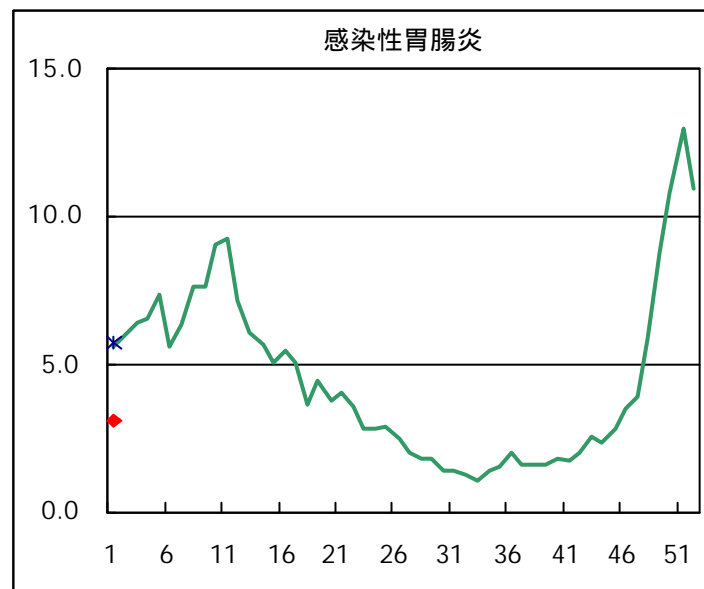
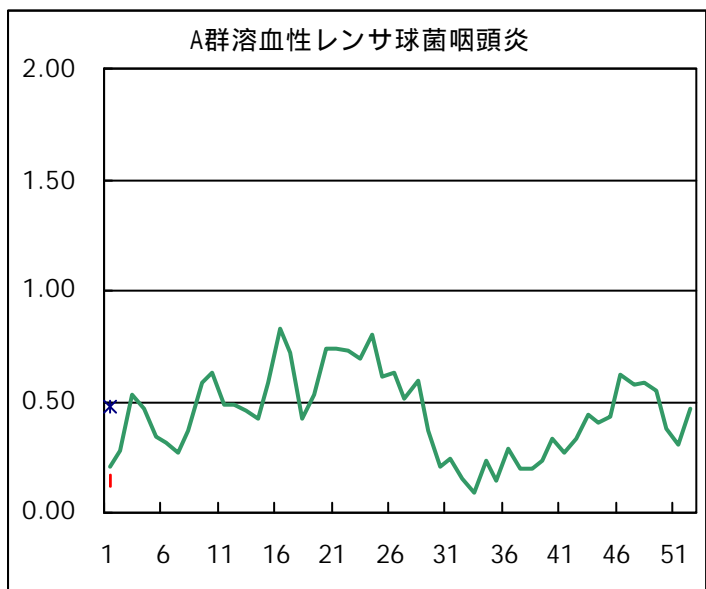
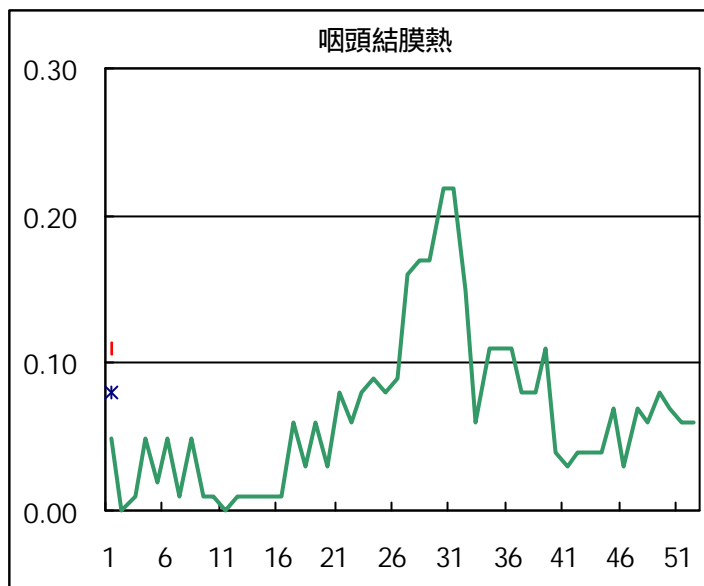
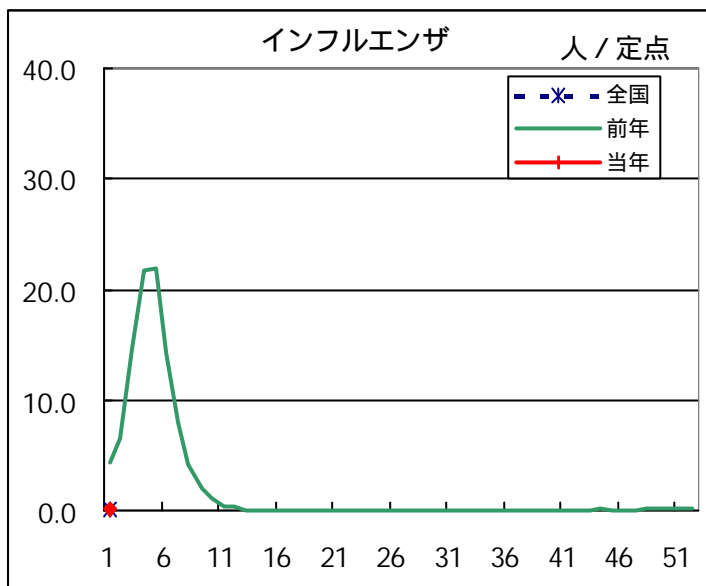
	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
中央				1														1
日本橋																		
世田谷	3			46	10		2	2					5			2		70
渋谷区		1		10	2													13
池袋	5			2											1			8
長崎				3	2		1	3					1					10
荒川				1														1
足立			3	24	5								7					39
千住																		
葛飾		1	1	17	13		3	1					2					38
江戸川				21	7		3					1				1		33
小岩			1	5	2								1					9
台東				8	3								1					12
目黒区				4														4
大田区			1	31	6	1	4	3					13					59
杉並	1			5	1			1					1					9
北区				6	5								5					16
板橋区	1			5	2			2					2					12
みなと					6								3					9
中野区	5	1		30	15			3					10					64
新宿区				30	5			1					7		10			53
品川区		3	1	20	3		1	1				1	5					35
千代田	1			7														8
練馬区				3	5		1						1					10
文京				3	2	1												6
向島				20	2		1											23
江東区			5	8	7						1		3					24

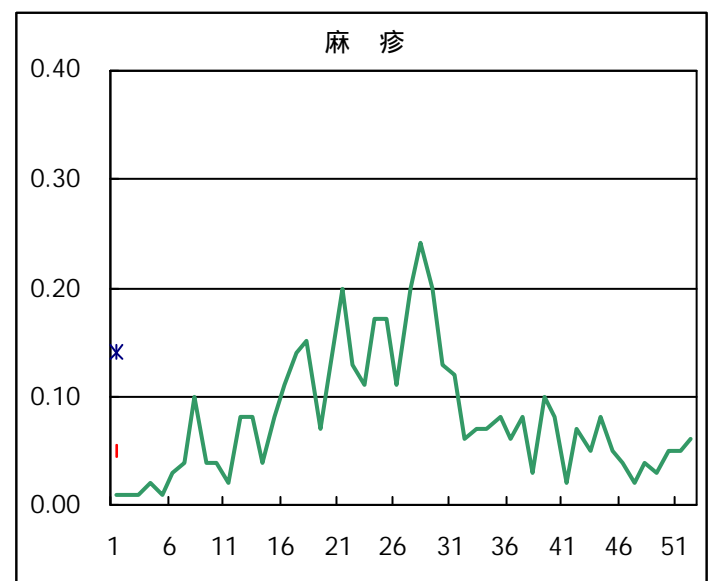
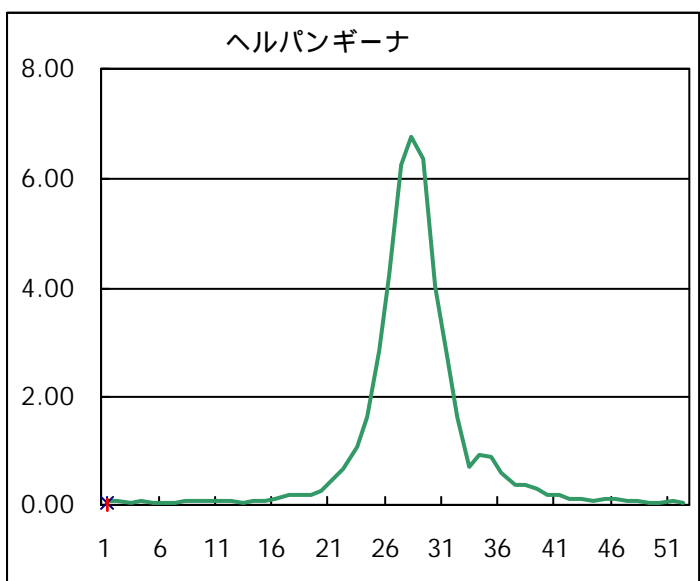
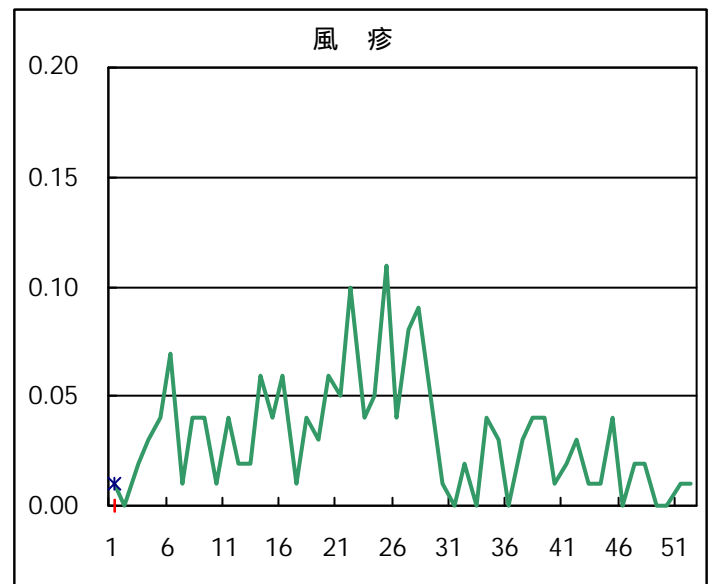
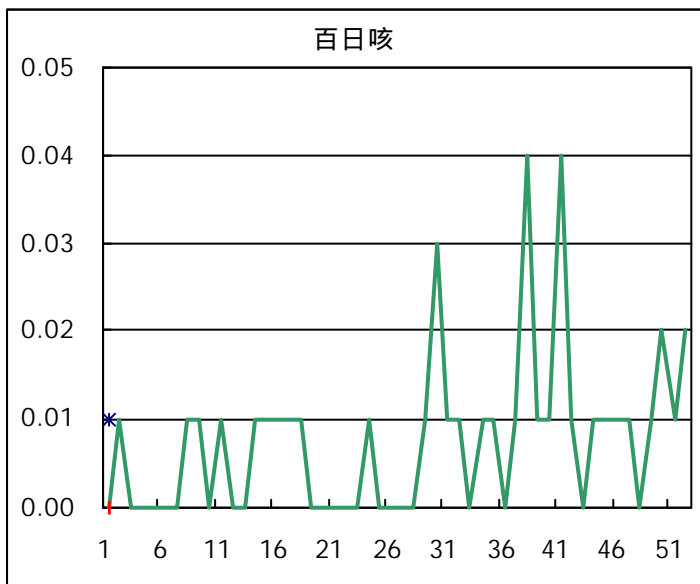
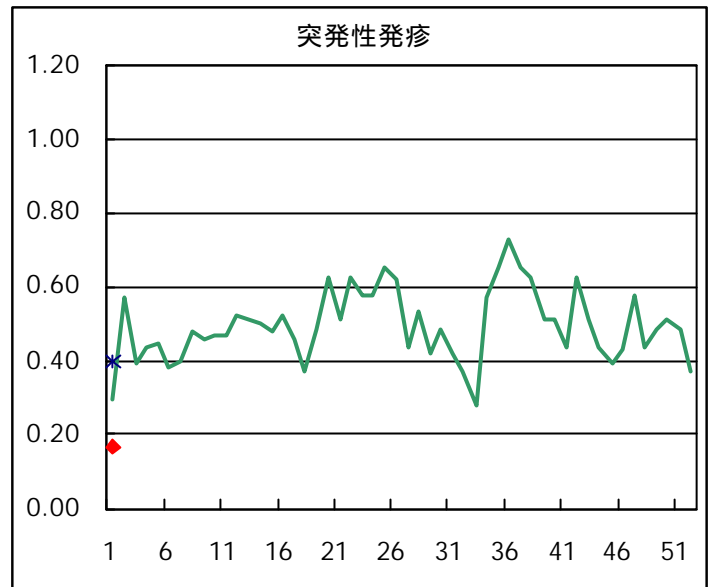
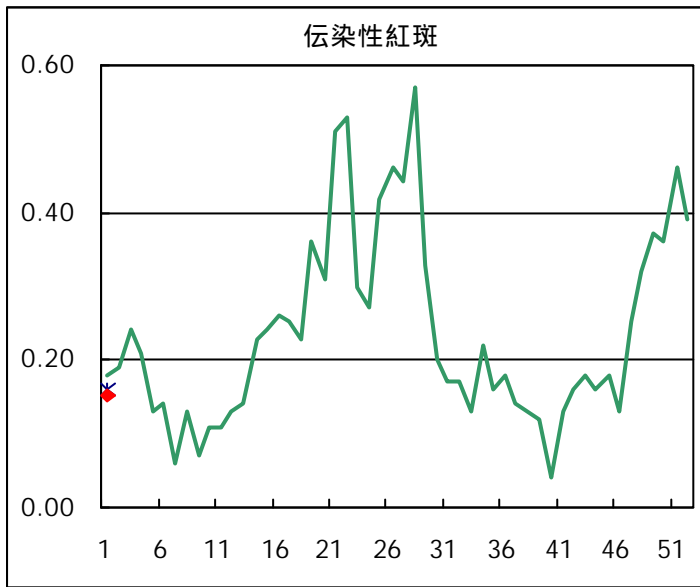
保健所別累計表 (2001年1週)

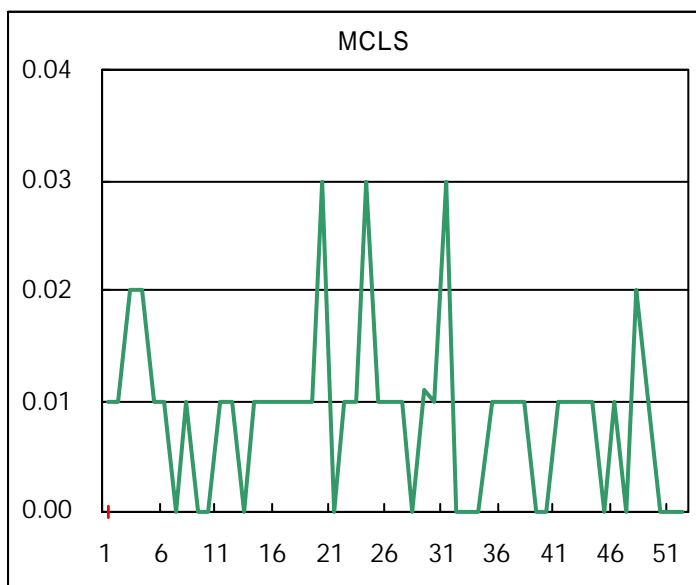
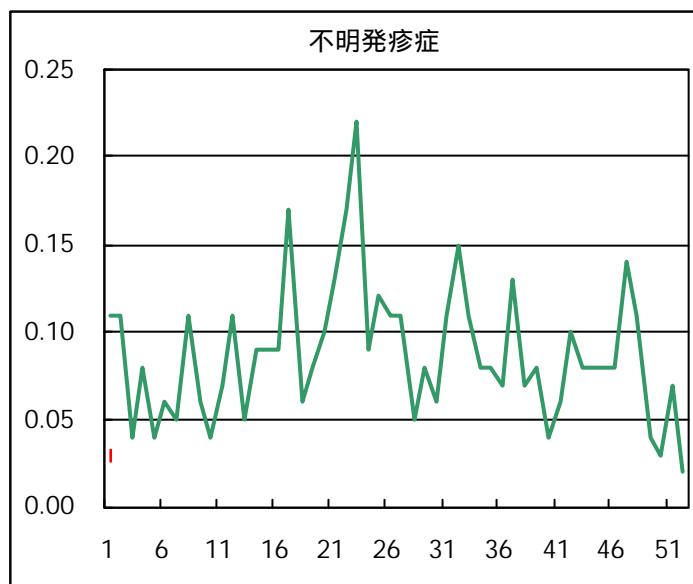
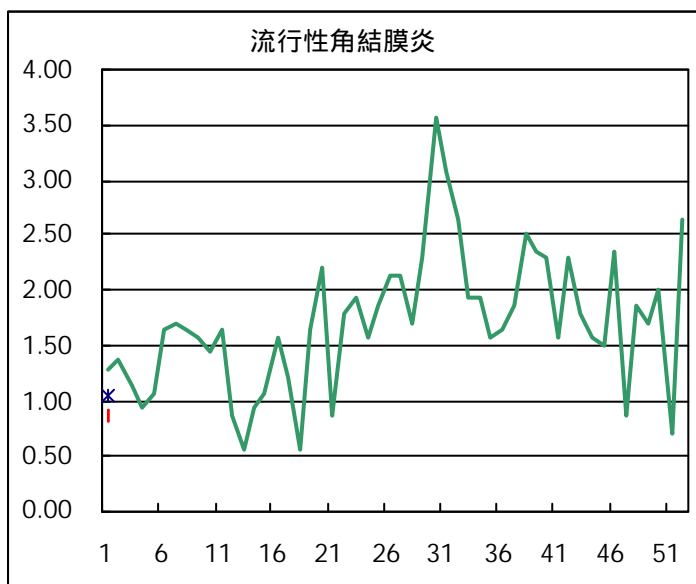
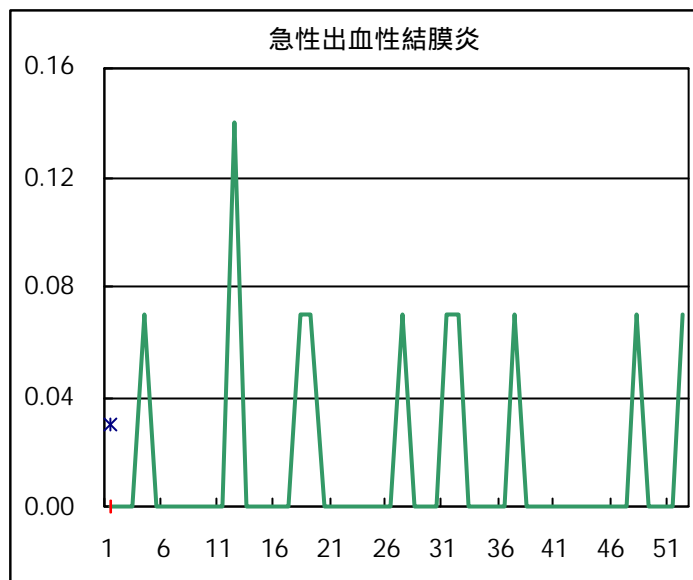
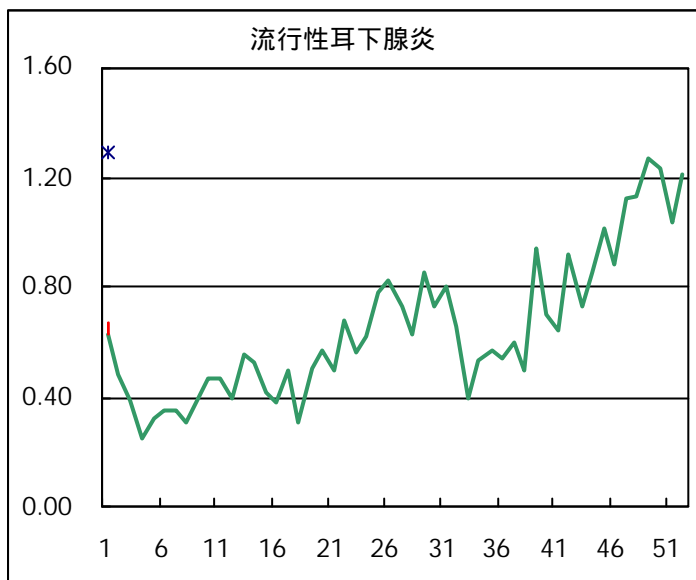
	インフル エンザ	咽頭 結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発疹	百日咳	風疹	ヘルパン ギーナ	麻疹 (成人以外)	流行性 耳下腺炎	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	不明 発疹症	MCLS	合計
八王子				3	3													6
町田			2	18	3			1					5		1			30
島しょ	1																	1
多摩川				7	11			1					2					21
秋川		3		16	9		1	3					4			1		37
南多摩	1			28	2								7					38
多摩立川			1	11	9							3						24
村山大和				14	1								2					17
府中小金井				1	1								3					5
狛江調布		6		9			1						1					17
三鷹武蔵野	2			5	4		2	1					2					16
多摩小平	1		5	10	2								1					19
多摩東村山				10	6		2	1					1					20

東京都合計	21	15	20	442	154	2	22	24	-	-	1	7	93	-	12	4	-	817
定点当り報告数	0.12	0.11	0.14	3.11	1.08	0.01	0.15	0.17	-	-	0.01	0.05	0.65	-	0.86	0.03	-	5.75

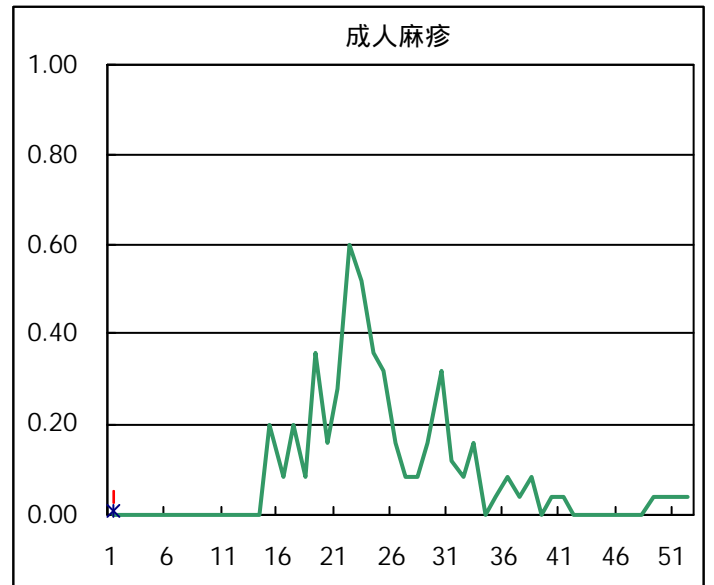
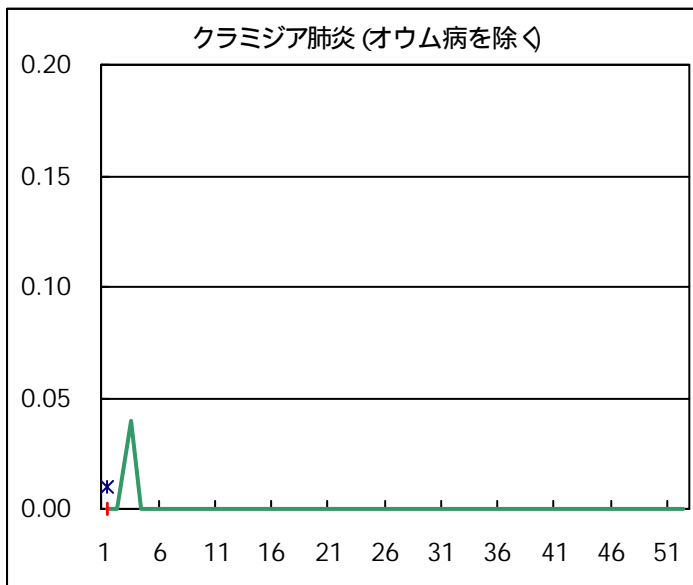
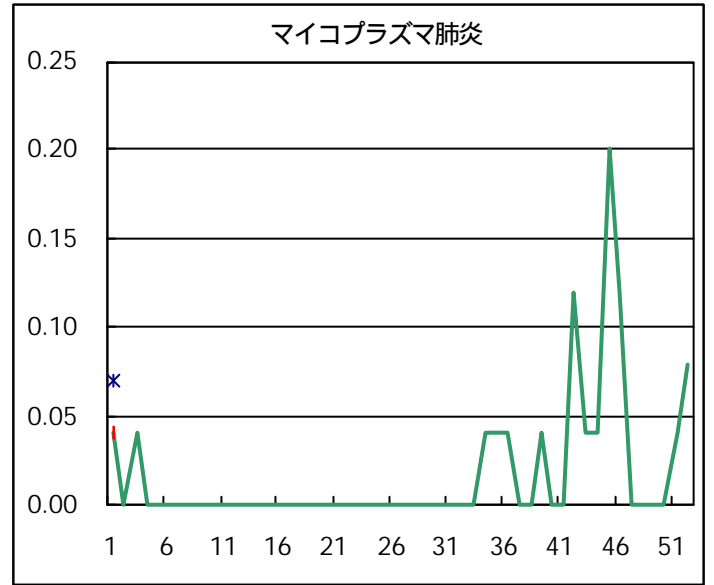
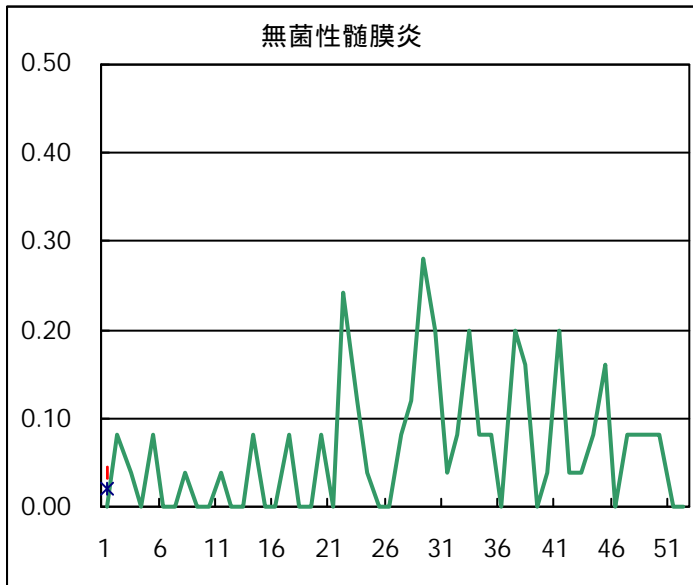
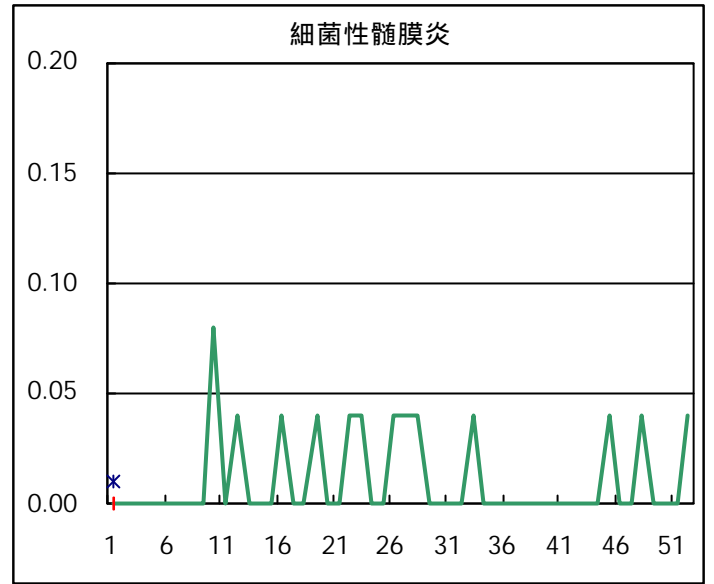
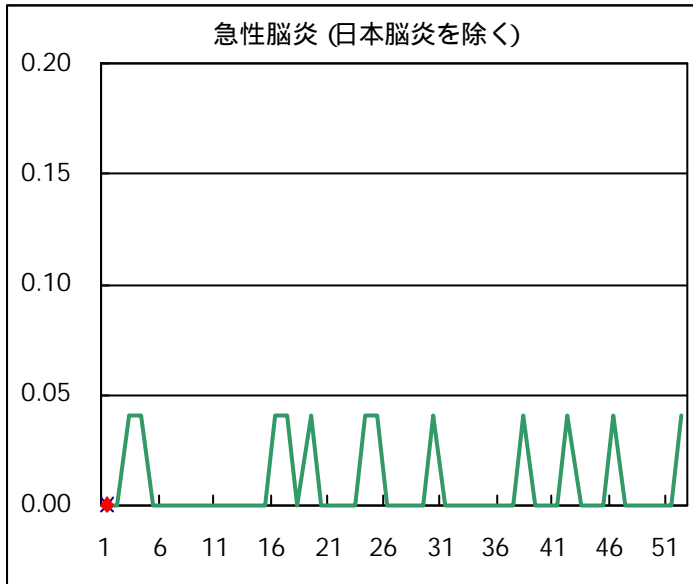
疾病別グラフ







疾病別の定点医療機関数	
疾病	医療機関数
インフルエンザ	178
急性出血性結膜炎	14
流行性角結膜炎	
急性脳炎	25
細菌性髄膜炎	
無菌性髄膜炎	
マイコプラズマ肺炎	
クラミジア肺炎	
成人麻疹	142
上記を除く疾病	



発生動向総覧（月報告分） 2000年12月分

（性感染症）

性器ヘルペスと尖形コンジロームの報告が多少増えているが、他の性感染症の報告数は減少している。

（基幹定点疾病）

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症とペニシリン耐性肺炎球菌感染症の報告は前年同期に近づいたが、薬剤耐性緑膿菌感染症の報告は前年と比べて少ない。

S T I 保健所別累計表（12月）

男								
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患	総計
中央	1			2				2
日本橋	1			3	1		2	6
小石川	1							
向島	1			3		3	1	7
城東	1			2			3	5
深川	1			25	11	5	18	59
渋谷区	4			7		1	5	13
池袋	3			20	5	5	2	32
荒川	1							
足立	1			5	1		2	8
台東	5			1	1		1	3
大田区	3				2			2
北区	1						1	1
板橋区	2							
みなと	1			8	9	2	8	27
中野区	1			6	2			8
新宿区	5		1	14	5	7	16	43
品川区	1			1				1
八王子	3							
町田	1							
多摩立川	2			2		1	11	14
三鷹武蔵野	1		2	7	3	2	4	18
総計	41		3	106	40	26	74	249
定点当り		0.00	0.07	2.59	0.98	0.63	1.80	6.07

女								
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖圭 コンジローム	淋病様疾患	総計
中央	1			1				1
日本橋	1							
小石川	1							
向島	1				1			1
城東	1			3				3
深川	1				1			1
渋谷区	4			2				2
池袋	3	1		13	4	1	2	21
荒川	1			3	1			4
足立	1							
台東	5	12		28	27	3	2	72
大田区	3			2	1			3
北区	1							
板橋区	2							
みなと	1			1	1		1	3
中野区	1							
新宿区	5	2	1	24	9	12	6	54
品川区	1							
八王子	3	2		9	1	1		13
町田	1			1	1		1	3
多摩立川	2	3	1	6	1	1	1	13
三鷹武蔵野	1		1	3	4	2		10
総計	41	20	3	96	52	20	13	204
定点当り		0.49	0.07	2.34	1.27	0.49	0.32	4.98

S T I 保健所別定点当り累計表 (1 2 月)

男							
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	大腸 コンジロー ム	淋病様疾患
中央	1			2.00			
日本橋	1			3.00	1.00		2.00
小石川	1						
向島	1			3.00		3.00	1.00
城東	1			2.00			3.00
深川	1			25.00	11.00	5.00	18.00
渋谷区	4			1.75		0.25	1.25
池袋	3			6.67	1.67	1.67	0.67
荒川	1						
足立	1			5.00	1.00		2.00
台東	5			0.20	0.20		0.20
大田区	3				0.67		
北区	1						1.00
板橋区	2						
みなと	1			8.00	9.00	2.00	8.00
中野区	1			6.00	2.00		
新宿区	5		0.20	2.80	1.00	1.40	3.20
品川区	1			1.00			
八王子	3						
町田	1						
多摩立川	2			1.00		0.50	5.50
三鷹武蔵野	1		2.00	7.00	3.00	2.00	4.00

女							
保健所名	定点数	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	大腸 コンジロー ム	淋病様疾患
中央	1			1.00			
日本橋	1						
小石川	1						
向島	1				1.00		
城東	1			3.00			
深川	1				1.00		
渋谷区	4			0.50			
池袋	3	0.33		4.33	1.33	0.33	0.67
荒川	1			3.00	1.00		
足立	1						
台東	5	2.40		5.60	5.40	0.60	0.40
大田区	3			0.67	0.33		
北区	1						
板橋区	2						
みなと	1			1.00	1.00		1.00
中野区	1						
新宿区	5	0.40	0.20	4.80	1.80	2.40	1.20
品川区	1						
八王子	3	0.67		3.00	0.33	0.33	
町田	1			1.00	1.00		1.00
多摩立川	2	1.50	0.50	3.00	0.50	0.50	0.50
三鷹武蔵野	1		1.00	3.00	4.00	2.00	

S T I 年齢階級別累計表 (1 2 月)

男						
	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖形 コンジローム	淋病様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳			4	1	2	2
20～24歳			25	4	10	14
25～29歳		1	23	7	5	25
30～34歳			12	5	2	12
35～39歳			19	6	5	7
40～44歳		1	10	4	1	5
45～49歳		1	7	5	1	5
50～54歳			5	2		3
55～59歳			1	3		1
60～64歳				1		
65～69歳				1		
70～歳				1		
合計	0	3	106	40	26	74
先月数	0	6	106	29	28	81
増減数	0	-3	0	11	-2	-7

女						
	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖形 コンジローム	淋病様疾患
0歳						
1～4歳						
5～9歳						
10～14歳						
15～19歳	1		20	1	4	1
20～24歳	3		26	9	6	6
25～29歳	4	1	23	14	7	4
30～34歳	2		10	13	1	2
35～39歳	3		8	7	2	
40～44歳	1	1	6	2		
45～49歳			2	1		
50～54歳	3	1	1	3		
55～59歳	1					
60～64歳	1					
65～69歳						
70～歳	1			2		
合計	20	3	96	52	20	13
先月数	29	2	115	54	16	24
増減数	-9	1	-19	-2	4	-11

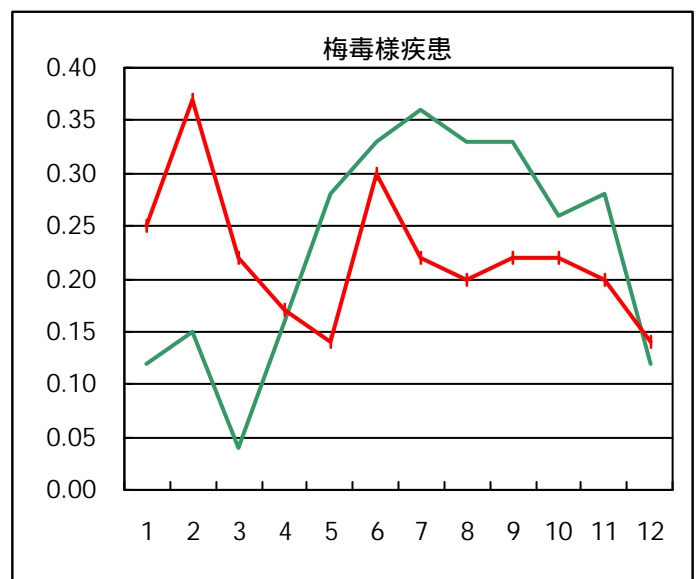
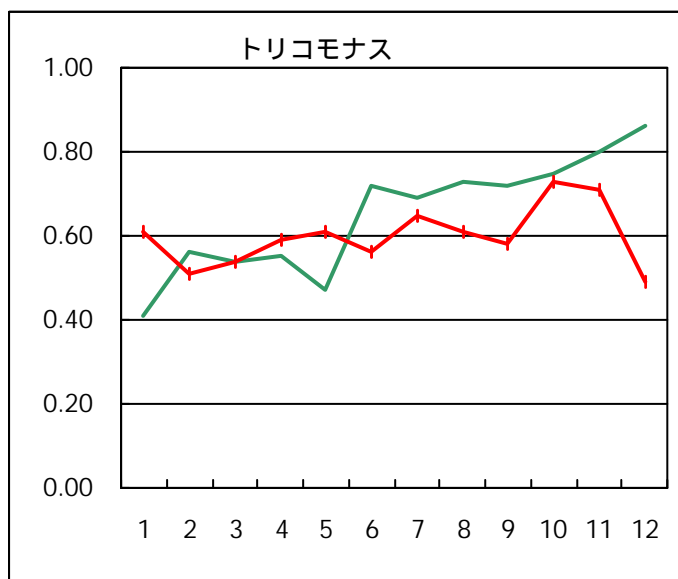
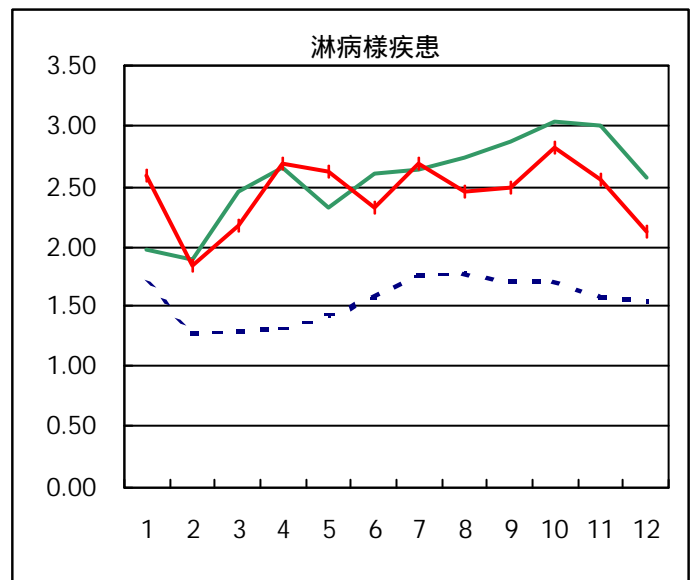
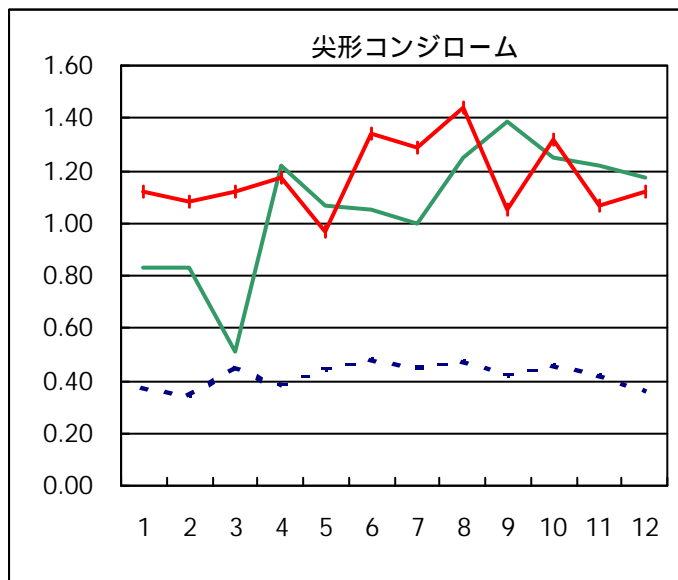
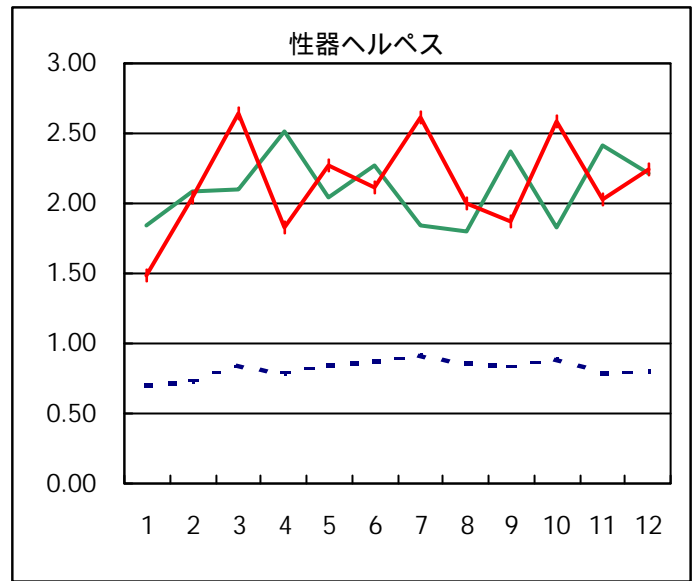
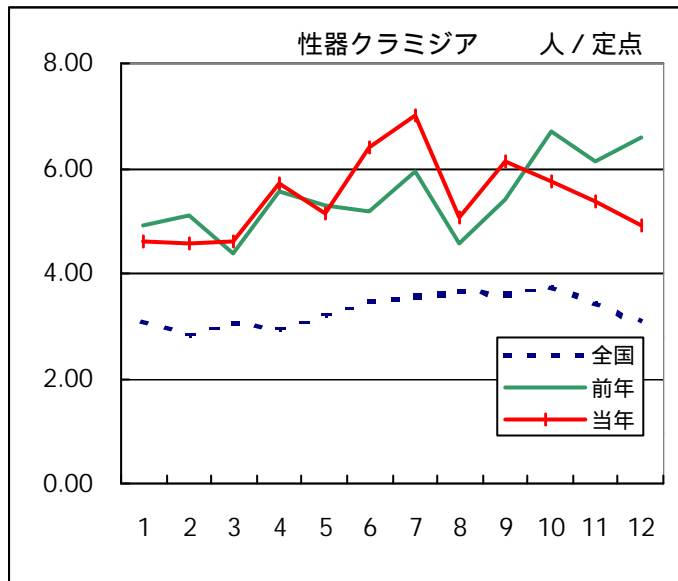
2次医療圏別累計表（平成12年12月） 総計 患者報告数

	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖形 コンジローム	淋病様疾患	総計
区中央部	12		44	39	5	14	114
区南部			3	3			6
区西南部			9		1	5	15
区西部	2	2	44	16	19	22	105
区西北部	1		33	9	6	5	54
区東北部			8	2		2	12
区東部			33	13	8	22	76
西多摩							
南多摩	2		10	2	1	1	16
北多摩西部	3	1	8	1	2	12	27
北多摩南部		3	10	7	4	4	28
北多摩北部							
島しょ							
計	20	6	202	92	46	87	453

2次医療圏別累計表（平成12年12月） 総計 定点当たり発生数

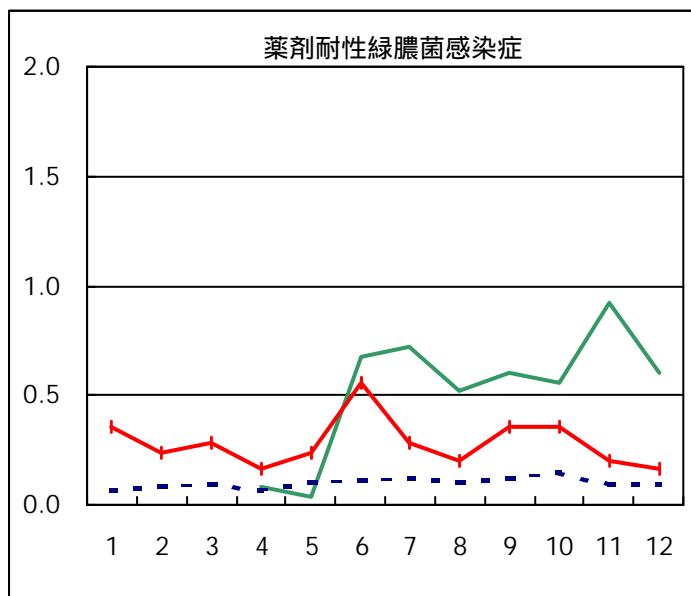
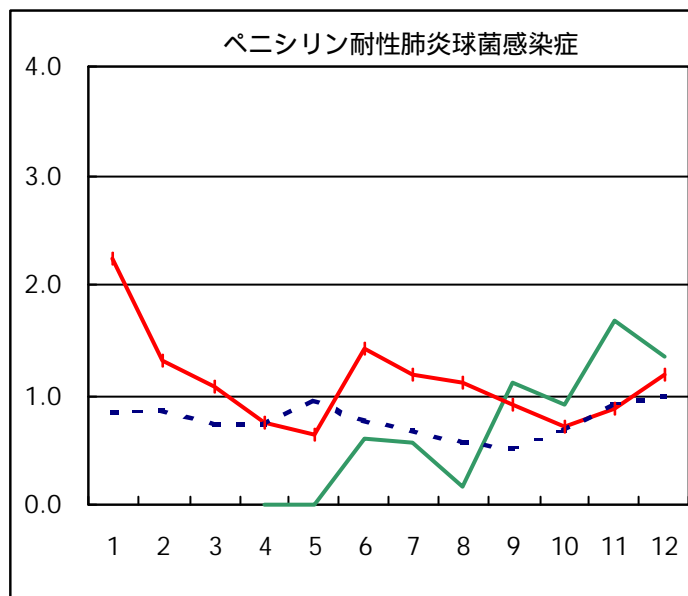
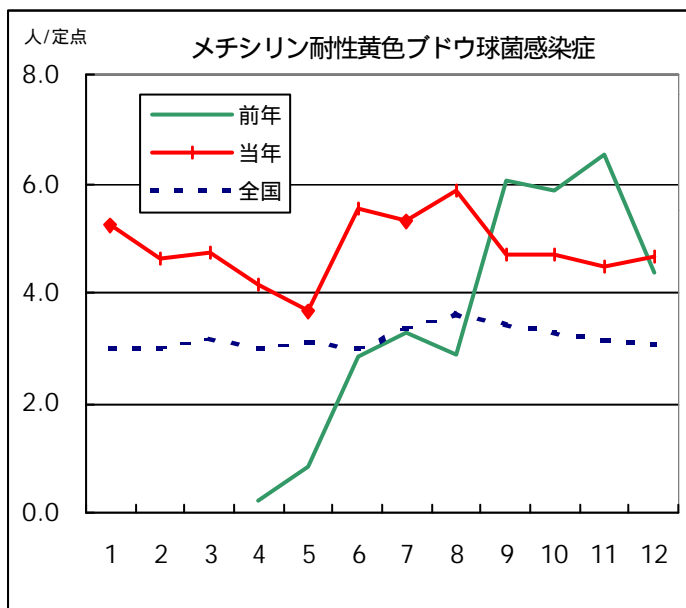
	トリコモナス	梅毒様疾患	性器 クラミジア	性器 ヘルペス	尖形 コンジローム	淋病様疾患	定点数
区中央部	1.33		4.89	4.33	0.56	1.56	9
区南部			0.75	0.75			4
区西南部			2.25		0.25	1.25	4
区西部	0.33	0.33	7.33	2.67	3.17	3.67	6
区西北部	0.17		5.50	1.50	1.00	0.83	6
区東北部			4.00	1.00		1.00	2
区東部			11.00	4.33	2.67	7.33	3
西多摩							0
南多摩	0.50		2.50	0.50	0.25	0.25	4
北多摩西部	1.50	0.50	4.00	0.50	1.00	6.00	2
北多摩南部		3.00	10.00	7.00	4.00	4.00	1
北多摩北部							0
島しょ							0
計	0.49	0.15	4.93	2.24	1.12	2.12	41

疾病別グラフ



基幹定点報告疾患集計 平成12年1月 - 11月

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	131	116	119	104	92	138	133	147	118	118	112	117
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	56	33	27	19	16	36	30	28	23	18	22	30
薬剤耐性緑膿菌感染症	9	6	7	4	6	14	7	5	9	9	5	4



疾病別の定点医療機関数	
疾病	医療機関数
梅毒	41
淋菌様疾患	
性器クラミジア	
性器ヘルペス	
尖圭コンジローム	
トリコモナス	25
メチシリン耐性 黄色ブドウ球菌感染症	
ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	
薬剤耐性緑膿菌感染症	

多剤耐性結核

東京都医師会感染症予防検討委員会

多剤耐性結核菌（以下MDR）は、昨年7月の結核緊急事態宣言にも取り上げられたように、世界中で大きな問題を引き起こし、注目を集めています。1980年代後半、AIDS患者中心に起こったMDR院内集団感染事件は、90%以上の死亡率を示し、全米をパニックに陥れました。日本でもこの菌による病院職員の集団感染事件が発生し、1997年に大きく報道されたのは、記憶に新しいでしょう。日本の患者数は、2000人程度と推定されていますが、若年者のほとんどが、結核未感染者なので、この菌による集団感染事件はいつ発生しても不思議ではありません。

そもそも、MDRとは、抗結核薬のうち、序列1のヒドラジッドと2のリファンピシンの両剤耐性菌のことを呼びます。多くの研究により、治療に反応しない慢性持続排菌者のほとんど全てが、MDRを排菌していることがわかっています。近年、薬剤耐性遺伝子の塩基配列の解明が急ピッチに進み、耐性菌は塩基配列のミスコピー（＝突然変異）によることが明らかとなりました。この耐性菌の増殖を助けるのは、医師の不適切な処方、患者の不十分な服薬と服薬中断です。このため、MDRはMan made diseaseと呼ばれています。近年、MDRの予防を目的にDOT（医療関係者の監視下の服薬）の導入が、世界的な潮流となっています。

MDRの治療は、未使用抗結核薬を3～4剤使用し、肺機能が許せば外科療法を併用します。肺葉切除だけでなく、胸郭形成術や、空洞切開術といった特殊な手技を駆使するので、治療可能な病院は日本でも限られています。

（文責：尾形英雄）